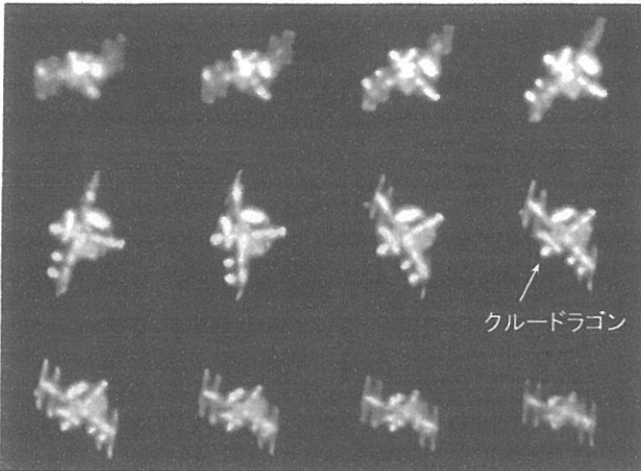




天文台だより

銀河の森天文台
2021 春号
Vol.91

国際宇宙ステーションを観測しました!



「野口聡一宇宙飛行士が滞在している国際宇宙ステーション」
2021年2月5日 17時42分36秒～44分26秒(JST)

2021年2月5日夕方、国際宇宙ステーション (ISS) をりくべつ望遠鏡で追尾観測しました。

陸別では、午後5時40分～45分頃にかけて西から南の上空約460kmを通り、南東へ移動していく様子を観測することができました。観測動画からキャプチャーしたISSを左上から横に約10秒間隔で2分間の追尾画像を並べてみました。ISSの見える角度が刻々と変わっていく様子がわかります。ISS画像で縦に2本ずつ並んで見えるのが太陽電池パネルで、中央端にちょっと飛び出て見えているのが、野口聡一宇宙飛行士が昨年11月に搭乗して行きISSにドッキングしている米国商業有人宇宙船「クルードラゴン」(運用1号機)です。

現在、ISSには野口宇宙飛行士を含め6名の宇宙飛行士が滞在しています。野口宇宙飛行士は今年の3月29日頃に地球に帰還予定で、その後には星出彰彦宇宙飛行士がクルードラゴン宇宙船(運用2号機)でISSへ行き、ISS船長として半年間滞在する予定です。

春のイベント情報!!

☆春の大三角と天体観望会

春の星座を探す目印「春の大三角」から様々な春の天体をめぐる観望会を開催します。

開催日: 4月28日(水)～5月9日(日)

説明会: 午後7時30分から(土・日・祝日のみ)

☆皆既月食観望会

5月26日夜、3年ぶりに皆既月食が日本全国で見られます。皆既月食は、太陽-地球-月と一直線に並び、地球の影に月全体が隠れる現象です。

皆既月食は、午後8時9分から始まり、午後8時19分に最大になり、午後8時28分に終わります。

開催日: 5月26日(水)

説明会: 午後7時から

暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
4月1日	5:04	17:55	18.7	22:16	7:11
4月15日	4:40	18:11	3.0	6:13	21:15
5月1日	4:15	18:30	19.0	23:31	7:19
5月15日	3:57	18:46	3.3	5:57	22:07
6月1日	3:43	19:03	20.3	—:—	9:34
6月15日	3:39	19:12	4.7	7:40	22:53

足寄動物化石博物館との「2館相互優待券」のご紹介

りくべつ宇宙地球科学館は、足寄動物化石博物館と平成26年3月20日に包括連携協定を締結しています。

この連携協定の一環として、「2館相互優待券」を発行し、配布しています。この優待券は「一方に入館するともう一方が割引料金に!」という券で、通常入館料より大人100円、小人50円の割引が受けられます。有効期限が入館施設印の日付から1年間で、1枚で1グループ全員割引されます。当館の場合、優待券は受付で配布しています。ご希望の方は入館時に受付でお申し付けください。

また、連携記念グッズも販売していますので、ぜひご来館ください。

プラネタリウム上映中止について

当館では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年3月よりプラネタリウム上映を中止しています。

当館のプラネタリウムはエアドーム式といって空気中でふくらませる方式で、直径4メートルの小さなエアドームになります。また、国内の感染拡大防止対策は3密を避ける対策しかなく、エアドーム内での上映は「密」を避けられないのが現状です。このような状況を考慮し、当館ではコロナ終息までプラネタリウム上映を再開しないこととなりました。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

裏面もあります

天文行事 & 暦

4月

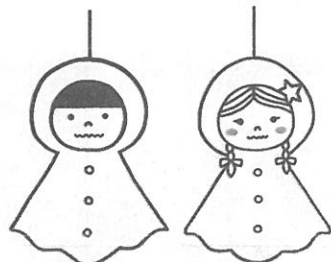
4 清明(24節気:太陽黄経15°)
 12 ●新月
 20 穀雨(24節気:太陽黄経30°)
 27 ○満月
 28-5/9 春の大三角と天体観望会

5月

4/28-5/9 春の大三角と天体観望会
 3, 4 特別開館
 5 立夏(24節気:太陽黄経45°)
 12 ●新月
 10-21 天文台メンテナンス休館
 17 水星が東方最大離角
 (光度:0.4等, 離角:22.0°)
 20 小満(24節気:太陽黄経60°)
 26 皆既月食観望会
 ○満月
 皆既月食
 (食始18:45、皆既始20:09、食最大
 20:19、皆既終20:28、食終21:53)

6月

5 芒種(24節気:太陽黄経75°)
 10 ●新月
 21 夏至(24節気:太陽黄経90°)
 25 ○満月



天体そもそも話「星座」

今回は「星座」の由来についてお話をしていきたいと思ひます。

現在よく知られている星座の発祥は紀元前2~3000年前の古代メソポタミア文明です。メソポタミア南部のカルデア人が、黄道付近で目立つ星の並びに、家畜や農具などを当てはめたのが始まりとされています。これがギリシアに伝わり神話や伝説と結び付けられ、2世紀頃の天文地理学者プトレマイオスが48の星座にまとめました。この48星座を基本に、隙間になっていた箇所や大航海時代以降に知られるようになった南の空に新しい星座が次々加えられていきました。しかし星座同士が重なるなどの問題が発生したため、1928年に国際天文学連合によって現在の88星座が制定されました。これらの日本語の星座名は1944年に学術研究会議(現・日本学術会議)によって定められました。学術用語としての星座名は「おとめ座」や「ヘルクレス座」のようにひらがなやカタカナで表記されます。(三)



ペッコカめぐり「サマエン・ノチウ」

春の夜、北の空高くに北斗七星を見つけることができます。北斗七星は、名前のおおりの北のひしゃく型をした七つの星で、おおぐま座の腰からしっぽにかけての部分です。とても目立つ星の並びですので、世界各地で様々なものに例えられました。

多くの星座を持つアイヌではどうかというと、やはりいろいろな物に例えられていて、北斗七星と同じ「ひしゃく」や「輪になって踊る女性」、「寝転がったカムイ」の姿などに例えられています。その中の一つ「サマエン・ノチウ」という呼び名では、熊を追って木をのぼるサマエンというカムイの姿に例えたものです。サマエンは村から村へ回り病気を癒したり、生活の知恵を授けてくれたカムイだそうです。星になったサマエンが世界中の病気を癒してくれることを願ひます。(中)



天文台からのお知らせ

- ☆ 4月より開館時間が、14:00~22:30(昼間14:00~18:00、夜間18:00~22:30)となります。
- ☆ 5月3日(月)、4日(火)は、特別開館します。
- ☆ 5月10日(月)~21日(金)は、天文台メンテナンス休館となります。

発行・編集：りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)
 〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100
 URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>
 E-mail: ginga@rikubetsu.jp Twitter: @ginganomori_obs



裏面もあります